

平成 29 年度 進路だより



わくわくワーク 第 1 号

平成 29 年 10 月 27 日
富山県立しらとり支援学校
進路支援部

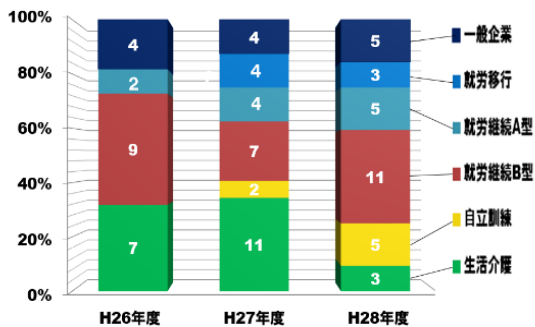
この 8 月に、障害のある人の働く場（就労継続支援 A 型事業所）についての話題が新聞の 1 面で大きく取り上げられました。子供たちの将来の進路先も、政治や経済の流れの中で様子が変わっていきます。社会の中で、自分らしくよりよく生きていくためには、進路に関する情報を広く知っておくことが大切です。この「わくわくワーク」では、学校での進路支援の様子や最新の進路先・福祉制度などをわかりやすくお伝えしていきます。ご家庭でお子さんと一緒に読んだりお子さんに読んで聞かせたりして、将来の夢や希望の実現に向けて考えるきっかけとしましょう。

（教頭 米原孝志）

進路状況について

本校では、児童生徒が学校教育全体を通して生きる力を高め、一人一人の自立と社会参加が実現することを目指して、家庭や関係機関と連携を取りながら進路支援を進めています。さて、高等部を卒業した生徒たちは、どのような進路先に進んだのでしょうか。ここでは、卒業生の進路状況や進路先での定着状況についてお伝えします。

過去3年間の進路状況



左図は、本校の卒業生がどのような進路先を選んだのか、過去3年間の進路状況のグラフです。横軸は卒業年度、数字は就労した生徒の数です。

上から一般企業、就労移行支援事業所、就労継続支援 A 型事業所、同 B 型事業所・自立訓練事業所・生活介護事業所を示しています。

このグラフから見てわかるように、本校の卒業生は、多様な進路先を選択しています。特に近年は就労継続支援 A 型事業所と就労継続支援 B 型事業所を合わせた割合が高くなっています。

右図は、卒業生の進路先での定着状況です。卒業生は、91%～96%と、ほとんどが卒業時の進路先と同じ事業所で働き、4名が就労の場を変更しています。本校では卒業後3年間、保護者や関係機関と連携してアフターケアを行っています。6月の就業体験時や夏季休業中に進路先を訪問し、仕事ぶりや適応状況を確認したり、保護者に家での様子を聞き取ったりしています。

進路先への定着率

	卒業生の数	定着している数	定着率
平成 28 年度 (卒業後半年)	32	30	93.8%
平成 27 年度 (卒業後一年半)	32	31	96.9%
平成 26 年度 (卒業後二年半)	23	21	91.3%

91%～96%と、多くの生徒が 卒業時の進路先に現在も在籍している。

第1回高等部就業体験（6月7日～20日）

子供たちの将来の進路を選択する上で非常に重要な学習活動である就業体験を実施しました。一人一人のよりよい自立と社会参加に向け、ステップアップできた体験となりました。その様子を報告します。

1年生 校内就業体験（クリーニング班の取組）

＜内容＞トイレ・窓掃除、アイロン掛け、洗濯物畳み

＜クリーニング班担当教員より＞

就業体験中は、ワイシャツやゼッケンのアイロン掛け、Tシャツやタオルなどの洗濯ものを干したり畳んだりする作業、トイレや窓の清掃に取り組みました。生徒それぞれが目標をもって、仕上がりやスピードを意識して取り組み、大きく成長した2週間でした。

2年生 やらんまいけ富山

＜内容＞金属・プラスチック部品の加工、検品

＜実習の様子 担任より＞

プラスチックの部品に金属の部品を取り付ける作業では、正しく取り付けられたか確かめたり、5個ずつ1列に並べるという決まりを守ったりしながら作業できました。次回は、より難しい仕事にチャレンジしてほしいです。



社会福祉法人 セーナー苑 萌黄

＜内容＞アルミ缶つぶし

＜実習の様子 担任より＞

アルミ缶をつぶす作業では、アルミ缶の入ったかごを持って来る、機械に一つずつ入れる、足で踏んでつぶす流れの作業に黙々と取り組むことができました。体験期間中、一日を通して落ち着いて活動に参加できました。

3年生 株式会社 大松

＜内容＞プラスチック部品の検品

＜実習の様子 担任より＞

医療用の検査用具に使われるプラスチックの部品などの検品をしました。医療用具なので、とても細かいところまでチェックし、髪の毛などが入らないよう、衛生面に気を付けながら取り組むことができました。



社会福祉法人 けやき苑 ショブ相生

＜内容＞割り箸の袋入れ

＜実習の様子 担任より＞

割り箸10本を袋に入れるごとにマグネットを動して作業量を記録することで、前回よりも集中力が向上しました。

保護者の声 就業体験事後アンケートより

保護者に就業体験について、良かった点、気付いた点などをアンケートで聞きました。一部ではありますが以下に載せます。今後の就業体験に生かしていきたいと思います。

高等部 1 年（校内就業体験）

- ・ 本人の様子をみながら作業の幅を広げ、挑戦させていただけた。毎日継続して行うことで、仕事のリズムを理解し活動に参加できたのではないかと感じている。
- ・ 就業体験報告会で2、3年生の発表を聞いて子供も刺激を受け、自分の進路について具体的に考えをめぐらせていた。

高等部 2 年（校外就業体験）

- ・ できること、できないことその他、職場での態度、言葉遣いなど、細かな所に気付くことができ良かったです。
- ・ 持ち物などが確認票に書かれてあり、助かりました。最後にきちんと振り返りの時間があったよかった。工賃など詳しい事業所の情報も知りたい。

高等部 3 年（校外就業体験）

- ・ 厳しいことを言われ、行かないと言うのではとヒヤヒヤしました。でもその中で最後までやり切ったのは、大きな成果だったと思います。「強くなった」、「働く厳しさが分かった」のではと感じました。
- ・ 年度末から新年度にかけて、就業体験について懇談できる場がもう少しあるとよい。

「プロの技術を学ぼう、体験しよう」

県の外部人材活用促進事業を活用して、仕事のプロを招いて技術や態度を直接指導していただく講習会を行いました。

7月13日（木）は、菓子工房クーの野崎ようこ氏、助手の寶田侑子氏をお招きして、高等部食物班の生徒を対象に、クッキー作りの実技指導をしていただきました。

生地を混ぜる作業や絞り袋の使い方を実演していただき、絞り袋でクッキーの生地を絞り出してオープン皿の上で形を作る技術を直接、教えていただきました。

食物班で行っているクッキー作りとは違う工程に、生徒たちは目を輝かせ、「勉強になりました。」と洋菓子製造の仕事に対する憧れを膨らませていました。

7月24日（月）は、太平ビルサービス株式会社富山支店の渡辺健太氏をお招きして、アビリンピックのビルクリーニング部門に出場する高等部生徒等を対象に、モップやダスタークロスモップの扱い方や、清掃時のポイントなどを実技指導していただきました。

生徒たちは真剣な表情で講師の先生の話の聞き、繰り返し練習に取り組んでいました。



講師の野崎さんから絞り袋によるクッキー製造を学ぶ食物班の生徒たち



講師の渡辺さんから実技指導を受ける生徒

「第1回インターンシップ推進委員会」

テーマ「就労・社会参加に必要とされること」

インターンシップ推進委員会は、児童生徒一人一人に応じたよりよい進路支援ができるように、企業関係者などの外部委員3名を交えて意見交換を行う会で、年2回開催します。

8月23日に開催した第1回委員会では、学校より昨年度卒業生の進路先やアフターケア、在校生の第1回就業体験の評価と課題について報告をしました。

そして、テーマ「就労・社会参加に必要とされること」についてディスカッションを行い、特に以下の2点について活発な意見が交換されました。

一つ目は、就労継続支援A型事業所についてです。近年多くの事業所が開設し、進路先とする生徒数が増加傾向にあります。しかし、様々なメディアで取り上げられたように、県外の就労継続支援A型事業所で多くの方が一斉解雇されたことや、特定求職者雇用開発助成金の支給制度が改正されるなど、就労継続支援A型事業所を取り巻く状況に変化が見られます。そのため、一人一人のより適した進路選択ができるよう、これからも、より正しく新しい情報を保護者に提供していく必要があることなどが話されました。

二つ目は、保護者や各関係機関と連携した進路支援についてです。卒業後は事業所でのよりよい定着を目指し、保護者や事業所、相談支援事業所、障害者就業・生活支援センターなどと学校が連携してアフターケアを行っています。また、今年度は小学部4～6年および高等部1、2年の保護者を対象にした進路説明会を新たに実施し、例年実施している中学部1、2年進路説明会と合わせ、小学部から高等部までの段階に応じた進路支援を推進しています。このような連携を今後も進めることが必要であるなどの意見が交わされました。

「教員の事業所体験報告」

夏季休業中に、教員の事業所体験を行いました。18名の教員が参加し、7箇所の事業所で、利用者の方と共に作業を体験してきました。この事業所体験を通して、「就労を目指して育てたい力」や「仕事のやりがい、大変さ」などの理解を深め、キャリア教育や卒業生のアフターケアにつながる貴重な体験をすることができました。

「就労継続支援A型事業所 清流（きよら）」

部品の検品作業は、部品に書かれた小さな数字を見て、数字ごとに箱に分けるといった仕事内容でした。とても骨の折れる作業でしたが、どの利用者の方も根気強く取り組んでおられることに驚きました。就労先の様子や仕事内容を詳しく知ることができ、子供たちに学校で身に付けさせたい力や仕事に対する姿勢や態度について考えさせられました。



「就労移行支援事業所 ヴィスト富山センター」

午前中は、「マイワーク」と「作業」がありました。マイワークでは「褒められ上手になろう」という講義があり、褒め言葉を受け取るポイントなどを聴き、その後ペアで褒め合うロールプレイを行いました。作業では、企業から廃棄された基盤をシュレッダーに掛ける作業を行いました。2時間黙々とシュレッダー掛けをするのは、思っていたより大変でした。

